

令和4年度農地中間管理事業に対する事業評価委員会意見

1 令和4年度目標に対する実績の評価について

農地中間管理事業集積目標面積700ha、うち新規集積面積300haに対し、実績は全体で616.6ha、内新規分は222.8haとなり、機構集積面積は、目標を達成することができなかった。

今後も引き続き機構利用の推進を図っていただきたい。

昨今、認定農業者や集落営農法人等担い手の経営環境が厳しくなっていることから、経営安定を図るうえにおいて、生産性の低い農地は手放すことも想定される。

そこで、圃場整備等の土地改良を積極的に進め、農地の生産性を高めることが必要ではないか。

そのような観点から「地域計画(併せて目標地図も)」の作成が何より急がれ、関係機関との協力のもと、担い手への農地集積と集約化をより一層推進してもらいたい。

2 人・農地プランの実質化から「地域計画」へ

県では、人・農地プランの推進方針を策定し、県内農業集落の約7割を目標に、プランの実質化を進めてきた。

今後は、実質化された人・農地プランをベースに、令和7年3月末までに「地域計画」を作成することが重要な取り組みになる。

「地域計画」の作成には、さまざまな階層の地域関係者が集う中、徹底した話し合いが必要になってくる。

そのようなことから、活発な議論ができる人が集えるエリア設定を行うことが肝要である。

また、話し合いでは、テーマに沿った建設的な意見を発言することが必要である。

そのため、参加する人々の話し合うスキルの向上は大変重要である。

農業委員会等によりファシリテーション研修が開催されているとのことだが、このような研修を充実させ、「地域計画」と「目標地図」がスムーズに作成されるよう取り組んでいただきたい。

3 「地域計画」の作成に伴う今後の農地集積と集約化について

「地域計画」の作成については、農業委員会の地権者や農業者に対する意向調査を基に、市町が策定案を作ることになっている。

農業委員会でも様々な議論がなされているが、支援に当たっては農地集積の方向性、守るべき農地かどうかの見極めなど、ケースバイケースで慎重にとりくんでいかなければならない。

その素案をたたき台として、将来的な地域農業の在り方や農地の利用集積の方向性について、地域の人々が徹底して話し合い、主体的に「地域計画」の策定を行うことが何より求められている。

また、中山間直接支払制度の「集落戦略」と地域計画は類似しているのもこれと地域計画の策定を併せて考えてはどうか。

更に、「目標地図」の作成では、農業委員会が収集した出し手・受け手の意向等のデータがタブレット端末に蓄積され農業委員会サポートシステムに反映されることが重要なので、早急な運用が必要である。

4 中間管理契約更新率向上のための今後の取組について

9月末現在の契約更新のうち、約20%の農地で契約更新がされていない。

その原因の一つに、更新農地に相続が発生し、未相続農地になっているとのことだが、その対策はいかに。

昨今、本来の相続人が農業をしておらず、地域外に出て農業に関心なく生活している人が多くなっている。そのようなことから、2～3世代も相続が行われていないケースも多々あり、今後も未相続農地の発生が懸念される。

それらの対応として、相続未登記や所有者不明農地は県知事の裁定を活用すべきではないか。

また、契約手続きに関する事務処理が煩雑との意見も聞くが、一層の簡素化を検討していただきたい。

5 遊休農地の解消について

令和3年度に実施した農業委員会による遊休農地利用状況調査によると約120haの遊休農地で中間管理事業の活用意向があるとのことだが、中間管理機構の遊休農地借受基準に照らし合わせた結果、11ha程度しか合致していない。

また、機構による「遊休農地解消緊急対策事業」の活用状況も低調である。

農業委員会のガイドラインに係る目標設定の中で、遊休農地の解消が謳われているが、目標の達成は可能か。今後も農村人口が減少することが懸念される中、解消見込みのない遊休農地は、林地化等行い、非農地化することも必要ではないか。

6 ねぎ産出額100億円プロジェクトの今後について

昨年度、ねぎの産地拡大のため産地拡大目標を184haと定め、そのための農地222.5haを確保したことに対し、目標を上回る取り組み成果を上げたことは大いに評価される。

確保された農地の内、143.2haが機構契約分で、9月末現在、71.4haが転貸済、残り71.8haが中間保有中とのことである。

中間保有は最大2年間可能だが、産地拡大による産出額の拡大が求められていることから、1日でも早く転貸契約が行われることが必要である。

令和5年3月

大分県農地中間管理事業評価委員会委員長 赤松 健一郎